


産業遺産の保存と活用に関する調査

整理番号	⑬		名称	三井美唄炭鉱事務所	分類	炭鉱関連施設	
写 真		所在地	美唄市南美唄町南町	建築年等	1931（昭和6）年		
		構造	木造	設計者			
		見学可否	外観のみ可能（内部は要許可）		施工者		
		文化財等の登録・指定内容	2007（平成19）年近代化産業遺産群				
		アクセス方法	美自校バス（南美唄線）・南美唄中央停留所から徒歩5分				
解 説	<p>・三井鉱山（株）美唄炭業所の事務所です。現在は民間企業の事務所として使用されています。</p> <p>・建物については一部解体されていますが、外観・内部は当時の面影を残しています。設計資料や美唄炭業所に関する資料は札幌支店が回収し、その後、三井文庫が保管しているようです。</p> <p>「一坑職員住宅平面図集」などの貴重な資料が残されています。また、付属屋として書庫も現存しています。</p> <p>・三井の炭鉱事務所建築の典型例と言えるもので、施設の維持管理のため、かなり改造されているのが惜しまれます。</p>						
施設の現存状況	○ 有 無（解体年）						
所 有 者	民間企業		管 理 者				
施設の管理方法 （いずれかに○）	1 市町村自ら管理 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 ○ 3 所有者が管理 4 その他 （ ）		施設の管理状況 （複数回答可）		1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 3 特に何もしていない ○ 4 その他 （三美鉱業（株）（日本コークス工業グループ）が事務所として使用・管理をしている。）		
施設の活用方法 （複数回答可）	1 教育施設として活用 2 観光施設として活用 ○ 3 一般開放していない 4 その他 （ ）		自由記載： 三美鉱業（株）（日本コークス工業グループ）が事務所として使用				
施設の今後の活用方法について （複数回答可）	1 文化財等へ登録・指定（国・市）※注1 2 施設のリニューアル 3 現状維持（維持補修を含む） 4 日本遺産の認定 5 世界遺産登録 6 解体撤去 ○ 7 未定 8 その他（ ）		自由記載：				
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など （いずれかに○）	1 すでに他地域と連携している（具体的な内容： ） 2 検討中 ○ 3 現時点では連携実施していない 4 その他（具体的な内容： ）						
施設を活用する上での課題 （複数回答可）	1 知名度が不足している 2 魅力的な展示方法がわからない 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している 4 施設を補足説明する写真や資料等がない 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる ○ 6 その他（具体的な内容：施設の活用にあたっては三美鉱業（株）との別途協議が必要）						
施設の画像の有無 （該当するものに○）	静止画	○ 有 写真 ネガフィルム デジタル写真 デジタルデータ その他（ ）				無	
	動画	有：8ミリフィルム ビデオ DVD その他（ ）				○ 無	
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。						


注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。

産業遺産の保存と活用に関する調査

整理番号	⑩		名称	旧三井芦別鉄道炭山川橋梁	分類	鉄道関連施設	
写 真		所在地	芦別市西芦別町～中の丘町	建築年等	1945（昭和20）年		
		構造	プレートガーター	設計者			
		見学可否	可	施工者			
		文化財等の登録・指定内容	2009（平成21）年登録有形文化財				
		アクセス方法	空知交通（株）バス頼城線「西芦6丁目」下車徒歩4分				
解 説	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三井芦別鉄道の橋梁（プレートガーター橋梁）の1つです。</li> <li>・芦別川支流の炭山川に架かっている橋で、水面からの高さは33mもあります。</li> <li>・1989(平成元)年に市に寄贈されて、鉄橋の上にはディーゼル機関車と貨車が保存されています。</li> </ul>						
施設の現存状況	有（ ） 無（解体年 ）						
所 有 者	芦別市		管 理 者	芦別市経済振興部商工観光課			
施設の管理方法 (いずれかに○)	<input checked="" type="radio"/> 1 市町村自ら管理 <input type="radio"/> 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input type="radio"/> 3 所有者が管理 <input type="radio"/> 4 その他 ( )		施設の管理状況 (複数回答可)	<input checked="" type="radio"/> 1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 <input type="radio"/> 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 <input type="radio"/> 3 特に何もしていない <input checked="" type="radio"/> 4 その他（2012年、市教委の文化財保護事業として腐朽枕木の交換工事を実施、単費540万円）			
施設の活用方法 (複数回答可)	<input type="radio"/> 1 教育施設として活用 <input checked="" type="radio"/> 2 観光施設として活用 <input type="radio"/> 3 一般開放していない <input type="radio"/> 4 その他 ( )		自由記載：				
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	<input type="radio"/> 1 文化財等へ登録・指定（国・市）※注1 <input type="radio"/> 2 施設のリニューアル <input checked="" type="radio"/> 3 現状維持（維持補修を含む） <input type="radio"/> 4 日本遺産の認定 <input type="radio"/> 5 世界遺産登録 <input type="radio"/> 6 解体撤去 <input type="radio"/> 7 未定 <input type="radio"/> 8 その他（ ）		自由記載：				
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	<input type="radio"/> 1 すでに他地域と連携している（具体的な内容： ） <input type="radio"/> 2 検討中 <input checked="" type="radio"/> 3 現時点では連携実施していない <input type="radio"/> 4 その他（具体的な内容： ）						
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	<input type="radio"/> 1 知名度が不足している <input type="radio"/> 2 魅力的な展示方法がわからない <input type="radio"/> 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している <input type="radio"/> 4 施設を補足説明する写真や資料等がない <input checked="" type="radio"/> 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる <input type="radio"/> 6 その他（具体的な内容： ）						
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	有 <input checked="" type="radio"/> 写真 <input type="radio"/> ネガフィルム <input type="radio"/> デジタル写真 <input type="radio"/> デジタルデータ その他（ ）				無	
	動画	有： <input type="radio"/> 8ミリフィルム <input type="radio"/> ビデオ <input checked="" type="radio"/> DVD その他（ ）				無	
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。						

注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。


産業遺産の保全と活用に関する調査

整理番号	⑰		名称	北海道炭礦鉄道岩見沢工場		分類	鉄道関連施設		
写 真		所在地	岩見沢市有明町中央		建築年等	1899 (明治 32) 年頃			
		構造	レンガ造		設計者				
		見学可否	外観のみ(敷地内は要許可)		施工者	伊藤組			
		文化財等の登録・指定内容	2007 (平成 19) 年近代化産業遺産群						
		アクセス方法	J R 岩見沢駅構内						
解 説	<p>・開拓史によって開設された幌内鉄道は、1889(明治 22)年創立の有限責任北海道炭礦鉄道会社に払い下げられました。</p> <p>・このレンガ造りの建物は、1892(明治 25)年に開通した幌内鉄道岩見沢・室蘭線の鉄道車輛の製作・修理のために、1899(明治 32)年頃建設されました。</p> <p>・かつては、数棟の赤煉瓦工場と機関庫車を有していましたが、現在は旧材修場 1 棟だけが、レールセンターの作業場として残っています。</p> <p>・妻壁には北炭のトレードマークだった星形社紋(五稜星形)が組み込まれており、岩見沢駅ホームから眺めることができます。</p> <p>・現在も北海道旅客鉄道(株)岩見沢レールセンターの事務所・工場として使用されています。</p>								
施設の現存状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (解体年 )								
所 有 者	北海道旅客鉄道(株)			管 理 者	北海道旅客鉄道(株)				
施設の管理方法 (いずれかに○)	1 市町村自ら管理 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input checked="" type="checkbox"/> 3 所有者が管理 4 その他 ( )			施設の管理状況 (複数回答可)	1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 3 特に何もしていない 4 その他 ( )				
施設の活用方法 (複数回答可)	1 教育施設として活用 2 観光施設として活用 3 一般開放していない 4 その他 ( )			自由記載：					
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	1 文化財等へ登録・指定 ( 国・市 ) ※注 1 2 施設のリニューアル 3 現状維持 (維持補修を含む) 4 日本遺産の認定 5 世界遺産登録 6 解体撤去 7 未定 8 その他 ( )			自由記載：					
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	1 すでに他地域と連携している (具体的な内容： ) 2 検討中 3 現時点では連携実施していない 4 その他 (具体的な内容： )								
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	1 知名度が不足している 2 魅力的な展示方法がわからない 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している 4 施設を補足説明する写真や資料等がない 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる 6 その他 (具体的な内容： )								
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	有：写 真 ネガフィルム デジタル写真 デジタルデータ その他 ( )					<input checked="" type="checkbox"/> 無		
	動 画	有：8ミリフィルム ビデオ DVD その他 ( )					<input checked="" type="checkbox"/> 無		
産業遺産の保全と活用について	*産業遺産の保全と活用についての質問や意見等があれば、記載してください。								

注 1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。



産業遺産の保全と活用に関する調査

整理番号	⑬		名称	小樽市総合博物館の関連遺産(旧手宮機関車庫、危険品庫、貯水槽、転車台)		分類	鉄道関連施設		
写真		所在地	小樽市手宮1丁目3-6		建築年等				
		構造			設計者				
		見学可否	可		施工者				
		文化財等の登録・指定内容	2001(平成13)年重要文化財 2008(平成20)年近代産業化遺産群続						
		アクセス方法	中央バス総合博物館停留所下車						
解説	<p><b>【旧手宮機関車庫】</b> 1885(明治18)年しゅん工の現存するわが国最古の機関車庫。創建時は「煉化石造機関車室」。設計者は、当時の農商務省北海道事業管理局炭礦鉄道事務所鉄道科長・平井晴二郎。室内は、間仕切り壁で東側に1室、西側を車両2台分の空間に区分している。西側の室内は、中央に石造り八角形の柱を建て、小屋梁を設けている。東側の1室は機関車を吊り上げて修繕することができる構造とするために、壁厚を増し、小屋組を補強している。レンガは「フランス」積み。</p> <p><b>【危険品庫】</b> 蒸気機関車の方向を変えるための装置。現存している転車台は1919(大正8)年横河橋梁製作所(東京)で製造された。長さ18.6メートル、幅3.8メートル。1974(昭和49)年3月までは手宮駅構内の貨車入れ替え作業に蒸気機関車が使用されていたため、その頃まで現役でその役割を果たしていた。</p> <p><b>【貯水槽】</b> 主に蒸気機関車に給水する水を貯えた施設。明治末期から大正初期頃にしゅん工したものと考えられる。かつては、転車台の西方70~95メートルの位置にある給水器へ地中に管を敷設して送水していた。1974(昭和49)年3月までは手宮駅構内で蒸気機関車が使用されていたことから、この貯水槽も現役で使用されていた。一辺4.4メートル、ほぼ正方形のレンガ積み構造物の上部に貯水槽を載せている。内部の梁には、19世紀末製造と思われるイギリス製レールが使用されている。</p> <p><b>【転車台】</b> 1898(明治31)年頃に建造された石造の倉庫。塗料や油脂類など、引火性の強い物品の保管に使われていたものと思われる。幌内鉄道は、1889(明治22)年から1906(明治39)年まで北海道炭礦鉄道株式会社の経営であったが、その当時の遺構としても貴重である。</p>								
施設の現存状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (解体年 )								
所有者	小樽市			管理者	小樽市				
施設の管理方法 (いずれかに○)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 市町村自ら管理 <input type="checkbox"/> 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input type="checkbox"/> 3 所有者が管理 <input type="checkbox"/> 4 その他 ( )			施設の管理状況 (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 <input checked="" type="checkbox"/> 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 <input type="checkbox"/> 3 特に何もしていない <input type="checkbox"/> 4 その他 ( )				
施設の活用方法 (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 教育施設として活用 <input checked="" type="checkbox"/> 2 観光施設として活用 <input type="checkbox"/> 3 一般開放していない <input type="checkbox"/> 4 その他 ( )			自由記載:					
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 文化財等へ登録・指定 ( 国・市 ) ※注1 <input type="checkbox"/> 2 施設のリニューアル <input checked="" type="checkbox"/> 3 現状維持(維持補修を含む) <input checked="" type="checkbox"/> 4 日本遺産の認定 <input type="checkbox"/> 5 世界遺産登録 <input type="checkbox"/> 6 解体撤去 <input type="checkbox"/> 7 未定 <input type="checkbox"/> 8 その他 ( )			自由記載:					
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	<input type="checkbox"/> 1 すでに他地域と連携している(具体的な内容: ) <input type="checkbox"/> 2 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 3 現時点では連携実施していない <input type="checkbox"/> 4 その他(具体的な内容: )								
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 知名度が不足している <input type="checkbox"/> 2 魅力的な展示方法がわからない <input type="checkbox"/> 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している <input type="checkbox"/> 4 施設を補足説明する写真や資料等がない <input type="checkbox"/> 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる <input checked="" type="checkbox"/> 6 その他(具体的な内容: 機関車庫三号については保存修理工事実施。他の物件についても今後修理工事が必要となる )								
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	<input checked="" type="checkbox"/> 有: <input checked="" type="checkbox"/> 写真 <input type="checkbox"/> ネガフィルム <input type="checkbox"/> デジタル写真 デジタルデータ その他 ( ) 無							
	動画	有: 8ミリフィルム ビデオ DVD その他 ( ) 無							
産業遺産の保全と活用について	博物館構内で動体保存されている蒸気機関車と一体となった活用が、重要文化財の活用にとってなくてはならないので、文化財指定物件の保存修理とともに、機関車の整備点検についても計画的に実施する必要がある。								

注1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。

業遺産の保全と活用に関する調査

整理番号	⑱	名称	アメリカ式鉄道関連遺産(旧手宮線跡地、旧思川鉄橋、北海道鉄道開通起点、総合博物館の保存車両)		分類	鉄道関連施設
写 真		所在地	小樽市手宮 1 丁目 3 - 6		建築年等	
		構造			設計者	
		見学可否	可		施工者	
		文化財等の登録・指定内容	2008 (平成 20) 年近代産業化遺産群続			
		アクセス方法	中央バス総合博物館停留所下車			
解 説	<p><b>【旧手宮線跡地】</b> 旧国鉄手宮線は幌内鉄道の一部として、1880 (明治 13) 年に小樽・手宮～札幌を結ぶ北海道で最初の鉄道として開通し、北海道開拓に重要な役割を担っていたが、1985 (昭和 60) 年に廃線。 市内中心部には、旧国鉄手宮線で使用されていた鉄道施設を残し、歴史性の保全を重視しながら素朴な風景を演出したオープンスペースを整備し、オープンスペース以外の区間には、手宮線廃止時の線路がそのまま残されている。</p> <p><b>【旧思川鉄橋】</b> 1909 (明治 42) 年に、札幌―手稲間の「思川」に架設された鉄橋。鋼材はイギリス製、大阪鉄工所で組み立てられた。</p> <p><b>【北海道鉄道開通起点】</b> 1880 (明治 13) 年 11 月 28 日、北海道で最初の鉄道が小樽・手宮～札幌間に開通したことを記念し、1942 (昭和 17) 年、当時の手宮駅構内に「起点標」が建てられた。 この起点標は、1994 (平成 6) 年に、北海道における「鉄道起点」(ゼロ・マイル) とされている地点 (小樽市総合博物館の敷地内) に移設され、現在に至っている。</p> <p><b>【総合博物館の保存車両】</b> い 1 号客車、蒸気機関車「大勝号」、キ 601 号回転雪かき車、キ 800 号かき寄せ雪かき車、キハ 031 号気動車、蒸気機関車「しづか号」などで構成。</p>					
施設の現存状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 無 (解体年 )					
所 有 者	小樽市		管 理 者	小樽市		
施設の管理方法 (いずれかに○)	<input type="checkbox"/> 1 市町村自ら管理 <input type="checkbox"/> 2 市町村から民間会社に指定管理・委託により管理 <input type="checkbox"/> 3 所有者が管理 <input type="checkbox"/> 4 その他 ( )		施設の管理状況 (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 市町村職員が行う草刈り・除雪等 <input checked="" type="checkbox"/> 2 屋根の防水工事など、必要に応じて修繕 <input type="checkbox"/> 3 特に何もしていない <input type="checkbox"/> 4 その他 ( )		
施設の活用方法 (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 1 教育施設として活用 <input checked="" type="checkbox"/> 2 観光施設として活用 <input type="checkbox"/> 3 一般開放していない <input type="checkbox"/> 4 その他 ( )		自由記載：			
施設の今後の活用方法について (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 文化財等へ登録・指定 ( 国・市 ) ※注 1 <input type="checkbox"/> 2 施設のリニューアル <input checked="" type="checkbox"/> 3 現状維持 (維持補修を含む) <input type="checkbox"/> 4 日本遺産の認定 <input type="checkbox"/> 5 世界遺産登録 <input type="checkbox"/> 6 解体撤去 <input type="checkbox"/> 7 未定 <input type="checkbox"/> 8 その他 ( )		自由記載：			
他地域との連携した取組について 「炭・鉄・港」など (いずれかに○)	<input type="checkbox"/> 1 すでに他地域と連携している (具体的な内容： ) <input type="checkbox"/> 2 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 3 現時点では連携実施していない <input type="checkbox"/> 4 その他 (具体的な内容： )					
施設を活用する上での課題 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 1 知名度が不足している <input type="checkbox"/> 2 魅力的な展示方法がわからない <input type="checkbox"/> 3 施設を解説できる人材が高齢化し、不足している <input type="checkbox"/> 4 施設を補足説明する写真や資料等がない <input type="checkbox"/> 5 施設が老朽化しており、修繕に多額の費用がかかる <input checked="" type="checkbox"/> 6 その他 (具体的な内容：屋外に車両が展示されているため、保存上に問題がある。)					
施設の画像の有無 (該当するものに○)	静止画	<input checked="" type="checkbox"/> 有：写真 <input type="checkbox"/> ネガフィルム <input type="checkbox"/> デジタル写真		デジタルデータ	その他 ( ) 無	
	動 画	有：8ミリフィルム ビデオ DVD		その他 ( ) 無		
産業遺産の保全と活用について	他の文化財 (特に重要文化財旧手宮鉄道施設) と一体となる保存活用の方針を策定する必要がある。					

注 1 「文化財等の登録・指定等」には景観法に基づく景観重要建造物の指定や、各市独自の保存制度も含む。